

資料①

補足資料

審議会意見一覧

No	会議名	意見等	事務局回答	備考（事務局対応など）
1	第3回審議会	他市比較はわかりやすいとが、経年での人口変動や人口推計の結果などは掲載しないか確認したい。和歌山県全体で、10代、20代の転出が多く、戻ってこない傾向にある中で、岩出市など一部の地域では転出超過数の減少や年少人口の増加が見られる。また、紀の川市合併前の旧町単位のデータはないか確認したい。現行計画の旧町単位での人口変動データは興味深いと考えている。	経年比較や人口推計は現時点では示せていない。本市の特徴として、令和5年と令和6年では社会増であったが、令和7年では転出数が上回り社会減となっている。今後お示しする基礎情報として、合併以降の人口動態や旧町単位での人口動態を調査し整理する。	・紀の川市合併後の人口動態や旧町単位での人口動態を整理する
2	第3回審議会	p. 69障害者支援施設数のコメントに「老年人口1万人当たり」と記載があるが、誤りか確認したい。	「老年人口1万人当たり」ではなく「人口1万人当たり」であるため、データを確認・修正する。	・改訂版基礎調査報告書p. 70の表現を修正 「老年人口1万人当たり」→「人口1万人当たり」
3	第3回審議会	紀の川市の今後10年を考えると、年少人口や生産年齢人口の将来推計も必要ではないかと考えている。次期計画策定に反映してほしい。	今後の10年を考えるため、将来人口推計や生産年齢人口の推移は非常に重要であると考えている。今回の基礎調査では、市の特徴を把握するために現時点のデータを整理した。今後、基本構想・基本計画策定にあたり、将来人口推計に関して提示を予定している。	・将来人口推計を実施する
4	第3回審議会	p. 44の観光客数について、コメントには「紀の川市の観光客数は田辺市に次いで多い」と記載があるが、田辺市と倍以上差があるため記載に違和感がある。めっけもん広場の客数が含まれていることが原因であり、紀の川市の観光客数が多くなっているのではないかと考えている。インパウンドの現状を正確に把握できていないのではないかと考えており、異なる視点や調査がないか確認したい。また、高野町の観光客数も公表されているため、あわせて示してほしい。	紀の川市の観光客数には、めっけもん広場の客数も含まれていると思う。また、貴志川駅など、特定の観光地に訪れる正確な観光客数は取得できていない。今後の施策検討にも使用するため、数字を精査し調査を進める。	・改訂版基礎調査報告書p. 45の表現を修正（「田辺市に次いで高い。」→「田辺市を除く比較対象団体と概ね同水準である。」） ・観光分野のみ比較団体を変更することが難しいため、別途情報を把握する
5	第3回審議会	観光客動態調査は和歌山県が実施しているが、精度がよくないという課題意識を持っている。宿泊者数と日帰り客数を計測しようとしているが、精度が低い状態である。来年度からは、正確なデータを取得するために調査方法の変更を検討している。勝浦や白浜など有名な観光地は抑えているが、紀の川市や岩出市のような今まで観光地と認識されていなかった地域でも観光客が増えているため、実態を把握できるよう検討を進める。	具体的な内容は決まっていないが、本市では携帯電話を利用した人流データの取得を検討している。今後調査が進展した際にはデータを共有する。	
6	第3回審議会	p. 64の病院病床数について、紀の川市は人口1万人当たりの病床数は比較対象団体と同水準であるが、岩出市や紀の川市はベッド数が今後不足していくことが懸念されている。他団体と同水準であれば充足というのではなく、医療体制の変更は検討が必要であることを認識してほしい。	市内部で現状を共有する。	
7	第3回審議会	ふるさと納税受入金額は紀の川市が非常に多くなっている。県内外へのプロモーションなどの努力の結果と記載があるが、他の要因があるのか確認したい。また、今後の取組についても確認したい。	今年度の実績についても、増額が見込まれており、プロモーションの成果に加え、紀の川市の特産品である桃を基盤とした果樹の返礼品が、強みとして増額につながっていると考えている。今後も果樹や生産者への支援によって農業産出額の維持に取り組む予定である。	
8	第3回審議会	将来像で、田園都市を「でんえんとし」と平仮名で記載している理由を確認したい。	該当するグループでの話し合いでは、幅広い世代に受け入れられる将来像のキャッチフレーズを設定するために平仮名としたと聞いている。	
9	第3回審議会	報告書はホームページに公開する予定か確認したい。	現時点では未公開であるが、審議会資料として掲載を予定している。	・未来共創ワークショップの報告書を公開する
10	第3回審議会	資料の中で第2回未来共創ワークショップのいちごっがるグループの意見と、最終の将来像のワードが異なっているのは意図があるか確認したい。	第2回未来共創ワークショップでキーワードを出し合い、第3回と第4回未来共創ワークショップでブラッシュアップしたため、報告書の結果が変更となっている。	
11	第3回審議会	多様な属性の方が参加されており、参加者の地域貢献に対する意識が高いと感じた。市民アンケートでは得られなかった多文化共生のまち、生涯学習の強化、地域で支え合えるまちに対する活発な意見があったため、p. 25のように、ワークショップの意見が反映されていることが確認できるような資料の構成としてほしい。	様々な方に参加いただき、大変な作業を実施いただいた。今後、ワークショップの結果に込められた想いを計画に反映させていく予定である。また、審議会ではワークショップの結果や込められた想いをふまえ、この後の骨子案でも説明する。	・各種ワークショップの結果を踏まえて基本構想や基本計画が検討されていることがわかりやすい資料の構成を検討する
12	第3回審議会	「審議会委員が関心を示された」などのフィードバックによって、市民の皆さんが自分たちも関わることができたという意識を持つことができるため、今後も機会があれば参加したいと思えるような雰囲気をつくってほしい。		
13	第3回審議会	子ども未来会議に参加していたが、街灯が少ないという意見が多く出ている印象がある。具体的に街灯が少なく暗い場所を確認したい。	街灯が少ないことや道路の老朽化、交通網などに対する意見が多くあった印象であるが、詳細な場所は確認できていない。子ども未来会議結果は市内に共有しており、早急に対応するよう伝達している。	
14	第3回審議会	防犯灯は区長が自治会費を使って改善できる場所もある。旧市街地や住宅地と新興の住宅地で偏りができていることも感じる。小中高生が実際にどう感じているかをヒアリングし、具体的な危険場所を自治会を通じて改善してほしい。また、ボール遊びできる場所がないと感じており、防犯上の安全を確認したうえで運動場を開放できるよう取り組んでほしい。	住宅地に近い通学路の街灯に関する意見もあった。また、道路や開発区域などによっては明るさに差があるという意見も出た。具体的に街灯が少ない場所や路面状態の悪い場所を把握できる手立てを検討して対応したい。	
15	第3回審議会	各区長に依頼して、街灯の設置やLEDへの更新などを進めてほしい。防犯カメラは、住民の許可や個人情報観点から問題が多く設置が困難な状況がある。また、街灯が少なく暗い場所の確認をお願いしたい。	住宅地に近い通学路の街灯に関する意見もあった。また、道路や開発区域などによっては明るさに差があるという意見も出た。具体的に街灯が少ない場所や路面状態の悪い場所を把握できる手立てを検討して対応したい。	
16	第3回審議会	10年後の紀の川市に、観光産業に力を入れることを期待している意見が多かったように感じる。年間通して旬のフルーツがあること、関西国際空港が近いことなどを計画に反映してほしいと感じた。		・いただいたご意見を参考に計画の作り込みする
17	第3回審議会	将来像はわかりやすく、親しみやすいと感じたが、もう少し理解しやすい表現にした方がよい。将来像のキャッチフレーズをもう少しわかりやすくするため、「実るまち つながる紀の川」を「つながる市民、つながる紀の川 実るまち」とした方がよいと考えている。「つながる」からはじめて、つながる結果として実り輝く未来につなげていくような未来志向を表現していることを検討してほしい。	市民参画の場でも、人とのつながりや、量より質が大切であるという意見をいただいた。将来像のキャッチフレーズは、今後様々な意見を反映する過程でブラッシュアップしていく。	・わかりやすく、かつ未来志向を表現している将来像のキャッチフレーズを検討する
18	第3回審議会	全体的なコンセプトとして①人を大切にしていること、②人と人の関係・つながりを重視していること、③つながりから思いやり・助け合いが大切であること、を重要視しているところを評価している。少子高齢化の時代に、人を大切に、個を大切に、質を大切にすることが重要であると考えている。	市民参画の場でも、人とのつながりや、量より質が大切であるという意見をいただいた。将来像のキャッチフレーズは、今後様々な意見を反映する過程でブラッシュアップしていく。	・将来像のキャッチフレーズを検討する

No	会議名	意見等	事務局回答	備考（事務局対応など）
19	第3回審議会	目標人口を掲げないとしても、定住・移住施策や外国人との共生は積極的に推進する必要があると考える。目標に向けて取り組みを展開しないことで、現状より悪化する可能性もあるという視点も必要になると感じる。	目標人口の設定はしないが、人口減少問題は紀の川市としても切実な状況である。定住施策や移住施策を引き続き推進し、人口増加を目指すとともに、外国人との共生も考慮していく必要があると考えている。今後、第2次総合計画の目標人口の評価について実施の必要性は感じているが、第3次総合計画では、今後10年を考えるうえで目標人口に基づき人口増加施策を展開することは手段であり目的ではないと認識している。	・将来人口推計を実施し、目標人口を検討する
20	第3回審議会	他自治体でも同様の将来像とまちづくりの目標が設定される可能性があるのではないかと懸念している。現在の骨子案には、紀の川市の歴史や文化、生活などこれまでの歩みが入っていないため、他自治体の基本構想でも違和感がない内容になってしまっている。これまでの歩みや地形的・歴史的な経緯を踏まえて、紀の川市として今後どうあるべきかを記載した将来像やまちづくりの目標にしてほしい。	他自治体でも適応しそうな基本構想となっている。これまでの紀の川市の生い立ちを踏まえたうえで将来像・まちづくりの目標を導き出すよう検討する。今回提示している資料は骨子案であるため、詳細な表現については次回提示予定の基本構想素案に反映を検討する。	・他自治体でも適応しそうな基本構想とならないような基本構想を検討する
21	第3回審議会	和歌山県の長期総合計画も人口についての記載が大きく変更されている。県全体で人口減少となっているため、人口減少に抗うという考え方だけでなく、人口減少にあわせて地域や社会の仕組みを変える挑戦をしていくという考え方も記載されている。自然減は避けられないトレンドであるため、地域の担い手となる若者が減少しないようにするなど、人口構成を考慮することが大事である。若者が地域に安心して住み続けられる展望を持つ環境づくりを重要視してほしい。また、移住定住のモニタリング指標として総人口は必要であるが、目標は総人口ではなく人口構成割合にすることなども検討してほしい。目標から施策を決めるのではなく、施策や取り組みから目標を決めていく姿勢は応援したいと感じた。	現状を受け止め、市民の暮らしの質が高められるような基本構想としたい。市民参画の意見を踏まえて、一定のぎわいが必要であると考えている。年齢構成を重視して取組を進めていくことを検討したい。	
22	第3回審議会	「3.学びと挑戦がめぐるまちへ」には、華岡青洲の大綱を作成し、「本市の生んだ世界の医聖華岡青洲の情報・研究・広報の拠点化を図る」という文言を入れてほしい。観光、医療、産業などを活性化するために華岡青洲を本市の看板として活かしてほしい。市職員を対象に講演させていただいたが、市職員でも知らないことが多く、人格者としてももっと周知できるとよいと思う。	紀の川市独自の情報として記載を検討したい。記載する文言の粒度は審議会などで調整する。	・次期計画に華岡青洲の記載を検討する
23	第3回審議会	人口6万人の目標人口を記載しないことは理解した。現行計画で6万人をめざすための重点プロジェクトが設定されているが、次期計画では重点プロジェクトという考え方は設定しないか確認したい。	次期総合計画は、まちひとしごと創生総合戦略と一体化することを想定している。次回審議会では総合戦略につながる一体的な策定を検討したい。	
24	第3回審議会	これまでの議論で人口に関する取組みは、量より質を向上させて安心して暮らせるまちをつくることによりという考え方で理解している。そのための重点プロジェクトは設定するのかを確認したい。	まちづくりの目標として掲げた目標を達成するためのプロジェクトは設定予定である。総合戦略と一体的設定することを考慮して検討を進める。	・まちづくりの目標を達成するための重点プロジェクトの設定を検討する
25	第3回審議会	「3.学びと挑戦がめぐるまちへ」に記載の、ICT教育や学校の統廃合等で環境を整備することは非常に重要であると考えている。また、子どもにとって原体験は非常に大事であるため、仕事体験や農業体験などの体験学習機会の充実を図るとともに、地域交流を進めることで学びを郷土愛につなげ、助け合いが実現されるような交流を大事にしてほしい。こども未来会議をはじめとして、自身が暮らすまちについて学校を超えて話し合い、学び合う機会の増加もお願いしたい。	子どもが挑戦していける体制を、子どもたちに示していきたい。また、体験などの教育活動は貴重な経験であるため重視していきたいと考えている。加えて、ワークショップでしか得られない活動を通して、行政としても目線合わせする機会になった。まちづくりの方向性を見定めるために継続して取り組みを続けていきたい。	
26	第3回審議会	「選取る未来」とは、何を選取るのかわからないため確認したい。「縮む未来」の対義語としてこの表現を使用していると感じるが、文脈を考慮すると、人とのつながりにより「広がる未来」という表現が適切だと感じた。	集中と選択を進めるために、市民との共創が欠かせないという意味でこのような表現となっている。ご意見を踏まえて更新する。	・基本構想の表現を検討する
27	第3回審議会	「今後の紀の川市のみらい」という記載で、平仮名で「みらい」と記載している意図はあるか確認したい。	意図はない。	
28	第3回審議会	基礎調査報告書について、p.34に男女就業率割合は、他市と比較すると紀の川市の女性就業率が高くなっており、紀の川市の強みであると考えている。離婚率を考慮すると弱みとなる可能性もあることは考慮が必要である。また、農業従事者の担い手不足が弱みであると記載があるが、15～64歳の農業従事者の割合は他市と比較してどうか確認したい。		改訂版基礎調査報告書p.36に「年代別農業就業率数」のデータを追加
29	第3回審議会	和歌山県の総合計画は来年度の予算要求作業を進めている。来年度実施に向けて取組を進めていることを参考までに情報共有させていただく。		